(中間C)

評価委員会総合評価

研究課題名：大気境界層の乱流構造の統合的研究

評価委員会

委員長：加納裕二

委員：葦澤 浩、露木 義、鬼頭昭雄、中村誠臣、上野 充、三上正男、
小林隆久、横田 崇、蒲地政文、緑川 貴、高橋 宙

評価年月日：平成24年3月13日

1. 総合評価

- (1) 継続の可否 継続 中止
(2) 修正の必要の有無 修正の必要あり 修正の必要なし

2. 総合所見

適切な研究手法に沿って進められている。査読論文による発表数も多く、サブグリッド乱流過程の改良など業務に活用可能な成果も得られており、野外観測用 PIV の開発などと併せて十分な研究成果があがっていると判断できる。

気象数値モデルが高解像度化していく中で、サブグリッド乱流過程の取り扱いが重要な問題である。本研究の進展により、この問題に対する知見が得られ、高解像度非静力学モデルの改善に貢献することを期待する。さらに、全球モデルや気候モデルへの適用も視野に入れつつ、風洞が利用できる研究環境を最大限に生かして研究を進めてもらいたい。

本研究を構成する課題間の連携があまりないことについては、現時点では仕方のないことかもしれないが、今後は連携を深め、本研究の最終目標である普遍則の見直しを現実のものとしてもらいたい。